

【短報】ホソセスジゲンゴロウの色彩変異について

ホソセスジゲンゴロウ *Copelatus weymarni* Balfour-Browne, 1946 は、国内では北海道から九州に分布するセスジゲンゴロウ属の種である(森・北山, 2002). 森・北山(2002)では、本種の色彩について、背面は褐色～暗褐色、時に上翅基部がきわめて細く淡色になることが記されている。また、森・北山(2002)に記されている国内産のセスジゲンゴロウ属の検索表では「上翅はほぼ一様に褐色～暗褐色、時に基部がきわめて細く不明瞭に淡色になる。」という形質により、北海道、本州、四国、九州(屋久島を除く)に分布するセスジゲンゴロウ属の種は本種として同定される。

筆者は、これまで知られていなかった本種の変異を確認した。この変異個体は、セスジゲンゴロウ属の他種と同様に上翅の基部に黄褐色の帯状の模様が見られるため、上述した本種の形質には当てはまらない。検索表で同定する際には留意すべきだと考えられるため、ここに報告する。なお、同定は雄交尾器の確認により行ったが、同所的に採集された個体がすべて本種であったこと、外部形態に差異が見られなかったことから、同時に採集された雌も本種と同定した。標本は全て筆者が採集したものであり、筆者が保管している。



図1. ホソセスジゲンゴロウ(変異1)。



図2. ホソセスジゲンゴロウ(変異2)。



図3. ホソセスジゲンゴロウ(通常型)。

〔変異1〕：1♂1♀，石川県白山市八幡町戊 石川県ふれあい昆虫館野外生態園，5. V. 2015；1♂，同所，5. IX. 2016(図1)。

〔変異2〕：1♀，石川県白山市八幡町戊 石川県ふれあい昆虫館野外生態園，5. IX. 2016(図2)。

上翅の変異は2型が確認された。すなわち、通常見られる上翅全体が褐色～暗褐色の個体(図3)に比べ、上翅基部に見られる黄褐色の帯状の模様が発達する個体(変異1：図1)，黄褐色の帯状の模様が細く変異1と通常個体との中間型のような個体(変異2：図2)である。この変異個体は、石川県ふれあい昆虫館野外生態園内のみどり池および降雨後にできる一時的な水たまりにおいて、数少ないながらも2年連続で確認されている。

末筆ではあるが、発表を助めていただいた福岡県保健環境研究所の中島淳博士にお礼申し上げる。

引用文献

森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版 図説 日本のゲンゴロウ. 231pp. 文一総合出版.

(渡部晃平 920-2113 白山市八幡町戊3番地
石川県ふれあい昆虫館)

◇学会の発行物・バックナンバーの販売委託先◇

昆虫文献 六本脚

〒102-0075 東京都千代田区三番町24-3

三番町 MY ビル 3階

TEL: 03-6825-1164

FAX: 03-5213-1600

E-mail: roppon-ashi@kawamo.co.jp

URL: <http://kawamo.co.jp/roppon-ashi/>